

血圧を計るとコミュニティができる； “うらら”の経験から

盛岡赤十字病院 健診部

釜石市医師会医用メディア活用委員会

鎌田弘之

仮設住宅

- 避難所という混然としたコミュニティから、仮設住宅入居により、個人や家族をベース
 - 自由な個人と集団はどうあるべきか？
- 核となる魅力のある事業
 - 例)お祭り、農作業etc
- 高齢社会に適した事業
 - 健康管理事業は、コミュニティはつukれないか？

うららとは？

- 平成3年から平成19年3月まで、岩手県釜石市の医療法人楽山会が日本で初めて商用化した遠隔医療システム（在宅健康管理システム）
- 最盛期は約400名の参加者がいた
 - サービスは有料（月額2,500円）
 - 会員相互の親睦のための組織をつくった
 - うらら友の会



うららの誕生

- 一人の技術者が考えた
 - 通信をつかって人々の暮らしを豊かにする方法はないものか？
 - ケーブルテレビのケーブルはテレビ放送の配信だけではなく、家庭からの発信するためのメディアである

うららの仕組み



通院
健康チェック



釜石市の医療機関

医療サービス



データ送信
電話相談

データ送信

問い合わせ

月間レポート
と電子メッセージ

うららデータセンター
(医療法人楽山会の専任ナース)

うららの活動

JazzとWineのタベ



健康講座



ウォーキング会



岩手県釜石市医師会 医用通信メディア活用委員会

- ◆ 釜石市でうららの遠隔医療システム(うらら)を医師会会員に広く使ってもらうための仕組み
- ◆ サービス運営費について
 - ◆ 利用者は月額2,500円をデータセンターに支払う
- ◆ 平成6年から活動し、平成9年度には旧厚生省より遠隔医療モデル地区に指定された
- ◆ 平成19年度にうららの販売が中止され釜石でもサービスが停止された(委員会は現在活動休止中)

コミュニティ作りのコア3要素

- みんなが信じられるもの
 - 血圧測定はいいことだ
- みんなが参加できるもの
 - 血圧はだれでもはかれる
- みんなにご利益があるもの
 - 血圧を下げると病気が減るのは科学的